

A 短期大学看護学生の精神看護学実習前後における意識

中山 亜弓*・澤田 由美

基礎看護学

(2012年11月28日受理)

精神看護学実習の前後における学生の意識変化を明らかにすることを目的に、平成 21～23 年度精神看護学実習を履修した A 短期大学看護学科 3 年生 190 名を対象に、精神看護学実習に対する意識調査を行った。その結果、実習当初において学生が不安に感じていることはコミュニケーションであり、学生は自身に起こっている出来事と、実際に患者と関わることで自己に生じる感情の変化や不安に意識を向けていることが伺えた。学生は精神疾患患者と共に場と時間を共有し、関係を築いていく体験を通し、患者は特別な存在なのではなく、医療を必要とする人であるという実感に繋がり、肯定的な患者観が育成されていくと考える。しかし、患者の反応として表現される言動や行動（病状の悪化、患者からの拒否）に対しては、ネガティブに捉えている面もあり、精神疾患とそれに伴う症状の特徴を理解し、対象の状態やその場の状況に合わせた対応が必要であると考えられる。

はじめに

看護学実習とは、学生が既習の知識・技術を基に、対象者と相互行為を展開し、看護目標達成に向かいつつ、そこに生じた看護現象を教材として、看護実践に必要な基礎的能力を習得するという学習目標達成を目指す授業¹⁾である。学生と対象者の相互行為が学習目標達成に向けた教材となり、さらに学生の学習活動へと繋がる重要な要素となる。精神看護学実習においても、精神疾患患者と共に時間と場を共有し、関係を築いていく過程を通して、自己理解や対象理解を深めていくことで、学生は看護師として必要な知識や技術を獲得していく。

精神看護学実習では、看護学生にとって精神疾患患者と初めて関わりを持つ機会になることが多い。既習の講義において精神看護の特色や要点、特にコミュニケーションの特性などに関する知識は学習している。しかし、実習では患者との関わりに戸惑いを感じ、実習に対して困難さを体験する。その要因には、偏見・先入観の思い込みや病棟構造、雰囲気などの環境が影響していると推察される。精神看護学実習に関して、看護学生の精神障害に対するスティグマ、授業の効果²⁾、精神疾患患者に対するイメージの変化^{3) 4)}、精神科病棟に対するイメージの変化⁵⁾、精神看護実習における自己意識の変化⁶⁾、精神看護学臨地実習後の学び⁷⁾、精神看護学実習指導^{8) 9)} などの報告は多くなされている。A 短期大学看護学科においても精神看護学実習に対する意識を把握する目的で、「精神看護

学実習に対する意識調査」を実習前後に配布し、実施している。

A 短期大学看護学科では、精神看護学実習において、単科の精神科病院の閉鎖病棟、開放病棟、デイケアセンターで 2 週間の臨地実習を展開している。実習の単位構成と目的・目標を表 1 に示す。実習における目標達成自己評価を分析した先行研究¹⁰⁾ では、治療的援助関係および治療的環境の理解に関する傾向を明らかにした。そこで、学生が実習前後に実施している意識調査から、内容を分析し現状について報告する。

I. 研究目的

精神看護学実習の前後における学生の意識変化を明らかにし、教育方法への示唆を得る。

II. 研究方法

1. 調査対象

平成 21～23 年度精神看護学実習を履修した A 短期大学看護学科 3 年生 190 名のうち、研究データとして使用することを承諾した学生。

2. 調査方法

領域実習開始前のガイダンス時、学生全員に研究の趣旨、倫理的配慮を文書にて説明した上で質問紙を配布、研究参加に同意した学生の回答を実習前の意識として分

*連絡先：中山亜弓 新見公立大学 看護学部 718-8585 新見市西方1263-2

表1 精神看護学実習の単位構成と目的および目標

授業 科目	精神看護学実習			専門分野			
				必修		2単位	
学年	3年次	開講時期	通年	時間数	90時間	授業形態	実習
■授業目的 精神科医療施設で行われている医療・看護活動に触れ、精神疾患患者の健康を回復する過程における、実践的な援助活動を理解し、看護過程を展開する能力を養う。							
■授業の目標 1. 精神の病気が、患者の心理状態や日常生活にどのように影響しているかを捉える。 2. 患者を一個人として理解すると共に、看護職・患者関係のあり方について考える。 3. 患者は地域社会での生活者であることを理解し、問題解決のための看護過程を展開する。 4. 精神科における治療法及び社会復帰活動を理解し、援助の方法を学ぶ。 5. 精神科病院・病棟の環境や管理の方法と治療・看護の関連を学ぶ。 6. 患者を支援する様々な精神科専門職種との関連、看護職の役割と責任を認識する。 7. 学生が自らを最大限に生かしながら、関わることを学ぶ。							

析した。学習後の意識調査は、精神看護学実習終了後に、回収ボックスに提出されたものを分析した。

3. 調査内容

「精神看護学実習に対する意識調査」は30項目からなる質問紙である。精神疾患患者に関する意識、学生自身に関する意識、精神看護学実習に関する意識が含まれている。その回答には、「全くそうは思わない」、「あまりそう思わない」、「ややそう思う」、「非常にそう思う」の4段階間隔尺度を用いた。なお、集計は「全くそうは思わない」、「あまりそう思わない」を「思わない」とし、「ややそう思う」、「非常にそう思う」を「思う」として分析した。

4. 分析方法

統計ソフトSPSS19.0J for Windowsを使用し、統計処理を行った。

5. 倫理的配慮

研究開始にあたり、A短期大学看護学部の承認を得た。対象者へは、すべてのカリキュラムが終了し単位認定を終えた時点で、研究の概要（研究目的、方法、匿名性・機密性の保持、協力への同意の有無は成績に一切関与しないこと、自由意思での参加であること、研究データとして使用すること）を説明した。そして、研究協力に同意した学生の質問紙334件を分析対象とした。

Ⅲ. 結果

研究参加の意思表示があった334件（回収率87.9%）のうち欠損値を除いた320件（有効回答率84.2%）を分析の対象とした。

年度別では、平成21年度115件（35.9%）、平成22年度98件（30.6%）、平成23年度107件（33.4%）であった。また、実習前の回答は184件（57.5%）、実習後の回答は136

件（42.5%）であった。

1. 精神疾患患者に関する意識

精神疾患患者に関する意識は、患者のイメージやコミュニケーション、患者理解に関わる質問項目となっている（表2）。

「患者との接し方がわからない」「コミュニケーションがとれるだろうか」「患者が突然大声を出さないだろうか」は、「思う」が実習前には約90%の学生が回答していたが、実習後にはその大部分が「思わない」と回答している。一方、「こちらの話すことがわかるだろうか」「患者が暴力を振るわないだろうか」は、実習前には「思う」／「思わない」に半数ずつ回答していたが、実習後には「思わない」と70～80%の学生が回答していた。また、「受容的・共感的な態度が必要とされる」「心を病んだ人を理解したい」「患者の気持ちを受け止めた」「患者のために何ができるか考えたい」は、実習前後とも90%以上の学生が「思う」と回答していた。「精神症状の把握ができるだろうか」は、実習前には90%以上の学生が「思う」と回答していたが、実習後には「思う」／「思わない」に半数ずつ回答していた。

2. 学生自身に関する意識

学生自身に関する意識は、精神看護学実習や患者と関わったときに生じる学生の思い関わる質問項目となっている（表3）。

「何もできないのではないか」「心から患者の看護ができるだろうか」「自分が落ち込んでしまわないだろうか」「問題に直面したら逃避したくなる」「プロセスレコードの書き方がわからない」は、実習前には約80～90%の学生が「思う」と回答していたが、実習後には約70%の学生が「思わない」と回答していた。一方、「自分の力を試してみたい」「患者の突然の行動に戸惑うかも知れない」「誠実に実習に取り組みたい」は、実習前後とも80%以上の学生

A 短期大学看護学生の精神看護学実習前後における意識

表2 精神疾患患者に関する意識

			全くそうは 思わない	あまりそう 思わない	ややそう 思う	非常にそう 思う	合計
患者との接し方が わからない	実習前	度数 (名)	0	16	109	59	184
		度数 (名)	.0%	8.7%	59.2%	32.1%	100.0%
	実習後	度数 (名)	21	86	24	5	136
		度数 (名)	15.4%	63.2%	17.6%	3.7%	100.0%
コミュニケーションが とれるだろうか	実習前	度数 (名)	0	10	76	98	184
		度数 (名)	.0%	5.4%	41.3%	53.3%	100.0%
	実習後	度数 (名)	25	73	30	8	136
		度数 (名)	18.4%	53.7%	22.1%	5.9%	100.0%
こちらの話すことが わかるだろうか	実習前	度数 (名)	10	80	82	12	184
		度数 (名)	5.4%	43.5%	44.6%	6.5%	100.0%
	実習後	度数 (名)	52	61	17	6	136
		度数 (名)	38.2%	44.9%	12.5%	4.4%	100.0%
患者が暴力を 振るわないだろうか	実習前	度数 (名)	4	76	78	26	184
		度数 (名)	2.2%	41.3%	42.4%	14.1%	100.0%
	実習後	度数 (名)	25	69	35	7	136
		度数 (名)	18.4%	50.7%	25.7%	5.1%	100.0%
患者が突然大声を 出さないだろうか	実習前	度数 (名)	1	28	116	39	184
		度数 (名)	.5%	15.2%	63.0%	21.2%	100.0%
	実習後	度数 (名)	15	66	44	11	136
		度数 (名)	11.0%	48.5%	32.4%	8.1%	100.0%
精神症状の把握が できるだろうか	実習前	度数 (名)	0	4	94	86	184
		度数 (名)	.0%	2.2%	51.1%	46.7%	100.0%
	実習後	度数 (名)	8	59	59	10	136
		度数 (名)	5.9%	43.4%	43.4%	7.4%	100.0%
受容的・共感的な 態度が必要とされる	実習前	度数 (名)	0	6	71	107	184
		度数 (名)	.0%	3.3%	38.6%	58.2%	100.0%
	実習後	度数 (名)	7	18	30	81	136
		度数 (名)	5.1%	13.2%	22.1%	59.6%	100.0%
心を病んだ人を 理解したい	実習前	度数 (名)	2	10	101	71	184
		度数 (名)	1.1%	5.4%	54.9%	38.6%	100.0%
	実習後	度数 (名)	6	8	50	72	136
		度数 (名)	4.4%	5.9%	36.8%	52.9%	100.0%
患者の気持ちを 受け止めたい	実習前	度数 (名)	1	8	89	86	184
		度数 (名)	.5%	4.3%	48.4%	46.7%	100.0%
	実習後	度数 (名)	5	6	36	89	136
		度数 (名)	3.7%	4.4%	26.5%	65.4%	100.0%
患者のために何が できるか考えたい	実習前	度数 (名)	0	5	74	105	184
		度数 (名)	.0%	2.7%	40.2%	57.1%	100.0%
	実習後	度数 (名)	3	3	36	94	136
		度数 (名)	2.2%	2.2%	26.5%	69.1%	100.0%

表3 学生自身に関する意識

			全くそうは 思わない	あまりそう 思わない	ややそう 思う	非常にそう 思う	合計
何もできないのでは ないか	実習前	度数 (名)	1	16	78	89	184
		度数 (名)	.5%	8.7%	42.4%	48.4%	100.0%
	実習後	度数 (名)	24	66	32	14	136
		度数 (名)	17.6%	48.5%	23.5%	10.3%	100.0%
自分の言動が 患者を悪化させるので はないか	実習前	度数 (名)	0	19	96	69	184
		度数 (名)	.0%	10.3%	52.2%	37.5%	100.0%
	実習後	度数 (名)	5	58	59	14	136
		度数 (名)	3.7%	42.6%	43.4%	10.3%	100.0%
心から患者の看護が できるだろうか	実習前	度数 (名)	2	34	91	57	184
		度数 (名)	1.1%	18.5%	49.5%	31.0%	100.0%
	実習後	度数 (名)	18	70	34	14	136
		度数 (名)	13.2%	51.5%	25.0%	10.3%	100.0%
自分が落ち込んで しまわないだろうか	実習前	度数 (名)	1	36	78	69	184
		度数 (名)	.5%	19.6%	42.4%	37.5%	100.0%
	実習後	度数 (名)	32	53	38	13	136
		度数 (名)	23.5%	39.0%	27.9%	9.6%	100.0%
患者に拒否される だろうか	実習前	度数 (名)	0	7	95	82	184
		度数 (名)	.0%	3.8%	51.6%	44.6%	100.0%
	実習後	度数 (名)	7	62	52	15	136
		度数 (名)	5.1%	45.6%	38.2%	11.0%	100.0%
自分の力を 試してみたい	実習前	度数 (名)	6	49	106	23	184
		度数 (名)	3.3%	26.6%	57.6%	12.5%	100.0%
	実習後	度数 (名)	5	26	69	36	136
		度数 (名)	3.7%	19.1%	50.7%	26.5%	100.0%
患者の突然の行動に 戸惑うかもしれない	実習前	度数 (名)	0	1	66	117	184
		度数 (名)	.0%	.5%	35.9%	63.6%	100.0%
	実習後	度数 (名)	2	24	70	40	136
		度数 (名)	1.5%	17.6%	51.5%	29.4%	100.0%
誠実に実習に 取り組みたい	実習前	度数 (名)	1	0	45	138	184
		度数 (名)	.5%	.0%	24.5%	75.0%	100.0%
	実習後	度数 (名)	3	1	16	116	136
		度数 (名)	2.2%	.7%	11.8%	85.3%	100.0%
問題に直面したら 逃避したくなる	実習前	度数 (名)	2	29	105	48	184
		度数 (名)	1.1%	15.8%	57.1%	26.1%	100.0%
	実習後	度数 (名)	15	64	47	10	136
		度数 (名)	11.0%	47.1%	34.6%	7.4%	100.0%
プロセスレコードの 書き方がわからない	実習前	度数 (名)	0	27	94	63	184
		度数 (名)	.0%	14.7%	51.1%	34.2%	100.0%
	実習後	度数 (名)	37	68	24	7	136
		度数 (名)	27.2%	50.0%	17.6%	5.1%	100.0%
看護過程の展開が できるだろうか	実習前	度数 (名)	0	7	82	95	184
		度数 (名)	.0%	3.8%	44.6%	51.6%	100.0%
	実習後	度数 (名)	3	47	65	21	136
		度数 (名)	2.2%	34.6%	47.8%	15.4%	100.0%

表4 精神看護学実習に関する意識

			全くそうは 思わない	あまりそう 思わない	ややそう 思う	非常にそう 思う	合計
精神看護学実習が 楽しみ	実習前	度数 (名)	13	83	77	11	184
		度数 (名)	7.1%	45.1%	41.8%	6.0%	100.0%
	実習後	度数 (名)	8	27	60	41	136
		度数 (名)	5.9%	19.9%	44.1%	30.1%	100.0%
精神科看護に 興味がある	実習前	度数 (名)	13	69	78	24	184
		度数 (名)	7.1%	37.5%	42.4%	13.0%	100.0%
	実習後	度数 (名)	8	28	50	50	136
		度数 (名)	5.9%	20.6%	36.8%	36.8%	100.0%
保護室に興味がある	実習前	度数 (名)	19	83	62	20	184
		度数 (名)	10.3%	45.1%	33.7%	10.9%	100.0%
	実習後	度数 (名)	5	34	69	28	136
		度数 (名)	3.7%	25.0%	50.7%	20.6%	100.0%
精神科看護の実際を 学びたい	実習前	度数 (名)	3	23	103	55	184
		度数 (名)	1.6%	12.5%	56.0%	29.9%	100.0%
	実習後	度数 (名)	5	13	56	62	136
		度数 (名)	3.7%	9.6%	41.2%	45.6%	100.0%
看護師の患者への 関わりの実際を 学びたい	実習前	度数 (名)	2	2	60	120	184
		度数 (名)	1.1%	1.1%	32.6%	65.2%	100.0%
	実習後	度数 (名)	5	1	46	84	136
		度数 (名)	3.7%	.7%	33.8%	61.8%	100.0%
精神科看護は難しい	実習前	度数 (名)	0	2	62	120	184
		度数 (名)	.0%	1.1%	33.7%	65.2%	100.0%
	実習後	度数 (名)	3	8	63	62	136
		度数 (名)	2.2%	5.9%	46.3%	45.6%	100.0%
実習指導者と コミュニケーションが とれるか心配	実習前	度数 (名)	3	43	87	51	184
		度数 (名)	1.6%	23.4%	47.3%	27.7%	100.0%
	実習後	度数 (名)	47	53	25	11	136
		度数 (名)	34.6%	39.0%	18.4%	8.1%	100.0%
実習指導者と積極的に 話したい	実習前	度数 (名)	1	7	96	80	184
		度数 (名)	.5%	3.8%	52.2%	43.5%	100.0%
	実習後	度数 (名)	3	6	44	83	136
		度数 (名)	2.2%	4.4%	32.4%	61.0%	100.0%
グループメンバーと 協力したい	実習前	度数 (名)	2	2	57	123	184
		度数 (名)	1.1%	1.1%	31.0%	66.8%	100.0%
	実習後	度数 (名)	3	4	21	108	136
		度数 (名)	2.2%	2.9%	15.4%	79.4%	100.0%

が「思う」と回答していた。また、「自分の言動が患者を悪化させるのではない」「患者に拒否されるだろうか」「看護過程の展開ができるだろうか」は、実習前には90%以上の学生が「思う」と回答していたが、実習後には「思う」/「思わない」に半数ずつ回答していた。

3. 精神看護学実習に関する意識

精神看護学実習に関する意識は、精神看護に対する思い、実習で関わる実習指導者や実習のグループメンバーへの思いに関わる質問項目となっている(表4)。

「精神看護学実習が楽しみ」「精神科看護に興味がある」「保護室に興味がある」は、実習前には「思う」/「思わない」に半数ずつ回答していたが、実習後には「思う」と約70%の学生が回答していた。一方、「実習指導者とコミュニケーションがとれるか心配」は、実習前には約70%の学生が「思う」と回答していたが、実習後には約70%の学生が「思わない」と回答していた。また、「精神科看護の実際を学びたい」「看護師の患者への関わりの実際を学びたい」「精神科看護は難しい」「実習指導者と積極的に話したい」「グループメンバーと協力したい」は、実習前後とも約80~90%の学生が「思う」と回答していた。

IV. 考察

1. 精神疾患患者に関する意識

実習を行うにあたり、学生が不安に感じていることは、コミュニケーションについてであることが伺えた。学生

は、精神疾患についての知識はあっても実際に患者と関わったことがないため、コミュニケーションや関わり方についての具体的なイメージができず戸惑っていることが考えられる。その半面、どのような治療や看護が行われているのかという関心や患者理解への関心はポジティブに受けとめていた。精神科病棟では、看護技術による日常生活の援助よりも話を聴く、見守りという援助が多い。そして、1人1人を理解し尊重する姿勢も重要であり、精神疾患の症状に左右されず、相手の立場に立って、その対象自身と向き合う姿勢となっていたと考えられる。

2. 学生自身に関する意識

学生は自身に起こっている出来事、実際に患者と関わることで自己に生じる感情の変化や不安に意識を向けていることが伺えた。看護学実習では、学生はケアの技術習得のみでなく、対象者と信頼関係を築き、自己の看護観を形成することを目的としており、精神看護学実習では、特に対象理解と関係形成過程に重点を置いている。それらは、時間と空間を患者と共に過ごしながら、学生自身の関わりを再構成することで、感情の内容や動きを客観的に捉えている。そして、患者や臨床指導者と共に考えることは、学生にとって相互作用の効果を導くことができる。しかし、患者の反応として表現される言動や行動（病状の悪化、患者からの拒否）に対しては、ネガティブに捉えている面もあり、精神疾患とそれに伴う症状の特徴を理解し、対象の状態やその場の状況に合わせた対応が必要であると考えられる。

3. 精神看護学実習に関する意識

精神看護学実習前後において、精神科看護に興味・関心が増していることが伺えた。患者の人的環境について、学生は患者同士や看護師の対応場面から学び、治療の場の雰囲気は患者の精神状態から学ぶ¹¹⁾。学生は精神科病棟という初めての環境に戸惑いながらも、患者に関わる方法を、看護師の介入を一緒に体験しながら学んでいく。そして毎日の実習終了時に実施されるショートカンファレンスで、看護師の態度や姿勢、介入のタイミング、看護師の細やかな配慮など、実習指導者から学生に伝えられる。精神疾患患者と共に場と時間を共有し、関係を築いていく体験を通し、患者は特別な存在なのではなく、医療を必要とする人であるという実感に繋がり、肯定的な患者観が育成されていくと考える。

おわりに

知識と実際を統合する力を育成するために、臨地実習は欠かすことができない貴重な機会である。臨地実習において実際に患者と関わることで、患者－看護者間に生

じる感情について客観的に受け止め、自己を振り返る力を培っていくことが必要であると考えられる。そして、この過程が自己の看護観、看護実践力へと繋がっていることが認識できるよう充実した実習展開を検討していきたい。

今回の調査は限定された教育機関における結果をまとめたものであるため、一般化することは困難である。しかし、今後もこのような学生の実習に対する意識についての調査は、精神看護学の教育内容・方法の検討、さらに精神看護学の専門性を向上させる上で必要であると考えられる。今後も継続した研究を行っていきたい。

文献

- 1) 杉森みどり, 舟島なをみ: 看護教育学. 医学書院, 254, 2009.
- 2) 風間眞里, 中谷千尋: 看護学生が持つ精神障害者に対するスティグマ－精神看護学講義前後の変化－. 日本看護研究学会雑誌, 31(3), 251, 2008.
- 3) 村井里依子, 松崎緑他: 学生が実習前後に抱く精神障害者のイメージ－精神看護学実習前後の比較をとおり－. 長野県立大学紀要, 4, 41-49, 2002.
- 4) 守屋みゆき: 看護学生の精神障害(者)に対する理解の変化(第1報)－3年次精神看護学実習前後の比較－. 東京医科大学看護専門学校紀要, 13(1), 13-21, 2003.
- 5) 福田倫子, 篁宗一他: 精神看護実習前後における精神科病棟におけるイメージ変化. 日本看護研究学会雑誌, 31(3), 251, 2008.
- 6) 吉浜文洋, 良知雅美: 精神看護学実習における学生の自己意識の変化について. 静岡県立短期大学部特別研究報告, 50, 1-12, 2001-2002.
- 7) 高橋香織, 片岡三佳: 精神看護学実習終了後のレポート分析から見た学び. 岐阜県立大学紀要, 6(1), 27-33, 2005.
- 8) 酒井美子, 土肥しげ子他: 精神看護学実習指導の検討－学生の記述による学びの分析から－. 桐生短期大学, 17, 175-180, 2006.
- 9) 斎藤まさ子, 内藤守他: 精神看護学臨地実習で対象者と共有する看護計画－学生の意識調査の結果を分析する－. 新潟青陵大学紀要, 8, 41-49, 2008.
- 10) 澤田由美, 中山亜弓, 餅田敬司: 精神看護学実習方法の検討－治療環境・コミュニケーションに関わる学びの分析を中心に－. 第31回日本看護科学学会学術集会講演集, 440, 2001.
- 11) 小坂やす子, 文鐘聲, 得珍温子: 精神看護学実習における学生が捉えた治療的環境. 日本看護学教育学会誌, 22, 218, 2012.